

## 新型コロナウイルス対応支援助成 事業計画（実行団体）

<b>事業名(主)</b>	社会資源に繋がれない外国人のためのアウトリーチ型支援事業
<b>事業名(副)</b> ※任意	地域の居場所 ー支援員養成と情報整備による支援体制の強化ー

入力数 主 28 字 副 29 字

<b>実行団体名</b>	ワールドフレンズ天草
<b>資金分配団体名</b>	公益財団法人熊本YMCA

### 優先的に解決すべき社会の諸課題

	領域		分野
	1) 子ども及び若者の支援に係る活動		①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
			②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
			③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動		④働くことが困難な人への支援
			⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
✓	3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動		⑥地域の働く場づくりの支援や地域活性化などの課題解決に向けた取組の支援
		✓	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

<b>上記以外 その他の解決すべき社会 の課題</b>	
-------------------------------------	--

- SDGsとの関連

ゴール
_3.すべての人に健康と福祉を
_4.質の高い教育をみんなに
_8.働きがいも経済成長も
_10.人や国の不平等をなくそう
_11.住み続けられるまちづくりを

実施時期	2022年5月 ~ 2023年2月	事業対象地域	全国 特定地域 ✓ (熊本県天草地域)	事業対象者	1. 天草地域在住外国人 (504人) 2. 外国人雇用企業、職場同僚 (504人) 3. 外国人支援に関わる日本人 (584人)	事業対象者人数	1,592人
------	-------------------	--------	------------------------	-------	---	---------	--------

I.団体の社会的役割

(1)団体の目的
私達ワールドフレンズ天草は、天草に訪れたり、暮らしを営んでいる「日本人も、外国人も」違いを認め合いながら、互いや各々の異なる文化を尊重し、幸せに暮らせる多文化共生の街づくりを進めることを目的に設立、活動しています。
外国人に限らず、大人も子どもも、高齢者も、障がいのある人も、男も女も、自分の個性や能力を最大限活かしながら、全体として調和している社会が実現しているビジョン掲げ、活動しています。
(2)団体の概要・事業内容等

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
昨今のコロナ禍の影響で、外国人散在地域であるここ天草地域でも、在住外国人が帰国予定であるのに帰国できなくなったり、逆に新たに入国予定であった外国人が入国できなくなったりしています。
コロナ禍で日本に在住している外国人にとっては、収入減や雇用継続の不安定さ、また既にある社会資源に繋がれずに本来提供されるべき福祉や支援策に繋がれず、より深刻な状況に陥っている方もおられます。
実質移動の自由がない技能実習生だけでなく、コロナ禍による影響で対面の制限がかかる今、地域社会からの深刻な孤立の現実が生まれ、支援団体にさえ繋がりにくい状況が生まれています。
こうしたコロナ禍での在住外国人が直面している現実に対し、同じ地域の仲間と力を合わせ、地域社会から支えられるべき社会資源にアクセス

2013年在住外国人妻への支援のためボランティア通訳として集まった有志達で団体設立。

民間の助成金を活用し、母子で集えるカフェや、日本の季節行事の会等を実施。

参加者の話に耳を傾けるうち、相談ができる場と、日本語が学べる場が必要であることを痛感。

相談対応、日本語教室を目的とした助成金の採択を受け天草地域全域で実施。

助成金事業の実績とニーズが認められ天草市事業として予算化され事業委託されている。

入力数 (1) ## 字 (2) ## 字

仲間としてなんとかかたを築き、せめて、ラモリ既にのる任云其源にたりども繋がれば、最低限の暮らしが守られる助けとなるのではと考えます。

外国人が持つ、言葉の壁、異なる文化の違いによる誤解や差別、移動の不自由、などの課題を取り除き、また、支援されるだけの存在では決してない彼らの能力や、素晴らしい文化を通してこの天草地域の活性化や、埋もれた地域資源の活用に活かせることができればと考えます。

法令等による彼らの状況改善のスピードは速くはなく、行政支援の狭間に陥る課題も種々にあります。

入力数 797 字

### III.事業内容

#### (1)事業の概要

在住外国人が安心して暮らせる環境を構築する。

- ①居場所づくり：顔の見える場を設定する事により孤立を防ぐ。当事者が活躍できる場の創設。異文化理解の場。
- ②支援員養成：相談対応と日本語教室運営のスキルを持つ支援員が養成され、広域な天草地域でアウトリーチによる支援がなされている。
- ③雇用に関する情報整備：これまでどこも持たなかった外国人雇用企業に関する情報整備が進み、外国人の働く環境が改善されている。

入力数 ## 字

#### (2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態

- ①これまで支援に繋がれなかった技能実習生を中心とする、在住外国人が相談の有無に関わらず気軽に集える場が提供されている。
- ②遠距離のため移動が難しい外国人に対して、天草中心部からの行政区を超えたアウトリーチ支援の基礎的な仕組みが構築されている。
- ③外国人雇用企業の情報収集を進める際に良好な関係を結ぶ事を大切にする事により企業からの信頼を得、困り事等について相談をしていただける関係性ができ始めている。

入力数 ## 字

#### (3)今回の事業実施で達成される結果（アウトプット）

実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
-----------------	------	----------	--------

<p>①地域の居場所ができることで、地域で多文化共生の交流が進んでいる。 外国人当事者の活躍の場が出来ている。</p> <p>②外国人支援に特化した専門的なスキルを擁した支援員が増加することで、天草の中心部にいない外国人にも支援が届けられている。</p> <p>③外国人に係る情報データベースができていて、外国人が安心して働くことができる。</p>	<p>①居場所の名前やメニュー作り、イベントアイデアなど、一緒に参加してもらう人数が50人以上となっている。</p> <p>②支援員養成講座が無事終了し、全プログラムを修了した市民が地域にいる。</p> <p>③データベースに具体的に有益な情報が保存されている。</p>	<p>①アンケートや、アイデア募集の公募により人数を把握する。</p> <p>②支援員養成講座の実施時間の報告。全過程を修了した者への修了証授与。</p> <p>③企業リサーチの実施数のカウント。</p>	<p>①居場所ができるまでの工程に関わってもらう人数が50人を超えている。</p> <p>②支援員が10名養成されている。</p> <p>③情報数65件（5件×13か所）を目指す。</p>	<p>①2023年1月</p> <p>②2022年11月</p> <p>③2023年1月</p>
--	---	--	--	--

(4)活動	時期
①居場所づくり	
居場所づくり：営業許可基準確認（保健所）	2022年5月
居場所づくり：不動産賃貸契約	2022年5月
居場所づくり：営業許可取得のための改修工事開始	2022年6月
居場所づくり：備品、消耗品購入	2022年6月
居場所づくり：改修工事完了、備品設置	2022年7月
居場所づくり：飲食店営業許可審査	2022年8月
居場所づくり：備品、調理器具、消耗品等搬入	2022年8月
居場所づくり：外国人と、飲み物・軽食試作とメニュー作り	2022年9月～10月
居場所づくり：アンケート結果を基に、居場所で開催する相談会やイベント等の企画、内容ブラッシュアップ	2022年10月
居場所づくり：防火管理者、食品衛生管理者、資格取得	2022年11月
居場所づくり：外国人、日本人スタッフ研修	2022年11月
居場所づくり：プレオープン、改善点、変更点など修正運営	2022年12月

居場所づくり：オープン	2023年1月
②支援員養成	
支援員養成講座：講座プログラム・教材作成開始、講座参加者名簿作成、会場予約	2022年5月
支援員養成講座：座学（2時間/週×6週）	2022年6月～7月
支援員養成講座：実技（日本語指導90分×2回）	2022年7月
支援員養成講座：実技（アウトリーチ相談会相談実務13か所、天草市合併前旧9市区町村支所および苓北町役場、上天草市役所）	2022年8月～10月
③雇用に関する情報整備	
外国人雇用企業へ、外国人に係る社会資源についてのお知らせとアンケート発送（1回目）	2022年6月
外国人に係る社会資源についてのお知らせとアンケート回収・分析・データベース作成（1回目）	2022年6月～7月
外国人雇用企業へ、外国人のための健康診断についてのお知らせとアンケート発送（2回目）	2022年8月
外国人のための健康診断についてのお知らせとアンケート回収・分析・データベース作成（2回目）	2022年9月～10月
外国人雇用企業へ、雇用外国人に係る在留資格等に関するお知らせとアンケート発送（3回目）	2022年11月
雇用外国人に係る在留資格等に関するお知らせとアンケート回収・分析・データベース作成（3回目）	2022年12月～2023年1月
①②③全体	
事業内容（支援員養成、情報整備、居場所づくり）完了	2023年1月31日
報告書完成	2023年2月28日

#### IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	<p>ワールドフレンズ天草：本事業実施主体。</p> <p>熊本県天草市 総合政策部 政策企画課：在住外国人への人道的支援のバックボーンとして本事業内容に協力。</p> <p>経済部 産業政策課：外国人雇用企業への支援、雇用されている外国人支援の視点での協力。</p> <p>人権擁護委員天草支部連絡協議会：外国人支援員としての関わりを持っていただく体制。</p>
--------------------	--

<p><b>(2)他団体との連携体制</b></p>	<p>熊本県天草市：市事業である多文化共生推進事業の中で本事業と連携、協力。          熊本県苓北町：在住外国人支援に関わる担当課の新設を視野に入れた体制にて連携、協力。          人権擁護委員天草支部連絡協議会：人権擁護委員外国人部を中心に広域な天草地域の各地の拠点として連携、協力。          アマビズ：事業の持続性を担保するためのビジネスの視点からのアドバイス等連携、協力。          有限会社福伸：技能実習生受け入れ企業の視点と飲食店経営企業としての視点からアドバイス等連携、協力。</p>
<p><b>(3)想定されるリスクと管理体制</b></p>	<p>地域の居場所を作るにあたり、気軽に立ち寄れる場としての機能担保のためカフェ等飲食の提供を考えている。当然コロナウイルス感染症対策の徹底された事業運用が必要となるのではあるが、感染リスクが0になることは無いので、持続的に感染症対策と事業運営を平行して安全性を担保するのは難易度が高いと想定される。</p> <p>車移動でないと生活が成立しない広大な地域でありながら、技能実習生はじめ外国人は自転車しか移動手段のない人が多いため、最適な居場所の立地の選定が非常に難しい。</p> <p>外国人雇用企業は、自分たちが社会から責められるのではないか、外国人同士のネットワークが広がると、職場環境や給与面のことで損益を被るのではないか、などと心配されている。しかしながら、実際は、情報をオープンにし、外国人に自由な権限が多く与えられている職場ほど地域社会からは高評価を得ており、外国人からも就労を継続したいとの人気が高い。このあたりの誤解をいかに解き納得していただけるかが本事業での情報収集体制の成否の分水嶺となっている。</p>

**V.関連する主な実績**

<p><b>(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無</b></p>				
<p><b>コロナウイルス感染症に係る事業</b></p>				
<p>①本事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している (予定も含む)</p>	<p>有</p>	<p>無 <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>有の場合 合 その詳</p>	
<p>②本事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない</p>	<p>無 <input checked="" type="checkbox"/></p>	<p>※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）</p>		
<p><b>(2)事業に関連する調査研究、連携の実績</b></p>				

#### ◆熊本県外国人支援機関情報共有会の開催

(開催実績) 2020年11月～ 2か月に1回 計9回開催

(内容) 県内各地の相談と対応の事例共有、外国人に関わる在留資格やコロナ禍での支援制度などについて確認など

(連携機関) 熊本県外国人サポートセンター、熊本国際交流会館外国人相談プラザ、中小企業団体中央会、外国人材受入支援センター、八代市国際課、長洲町外国人相談窓口

#### ◆熊本県多文化共生シンポジウムに登壇

(開催日) 2022年2月26日

(内容) ポストコロナを見据え、今後増加が見込まれる外国人材を受け入れる側である地域にどのような取組が求められるのかを考えるシンポジウムにて「外国人相談から見えてくる地域に求められる取組」というテーマで事例発表とパネラーとして招聘される。

(連携機関) 熊本県外国人サポートセンター、一般財団法人熊本市国際交流事業団など

#### ◆熊本・外国ルーツの子ども支援連絡協議会所属団体

(活動期間) 2015年度より協力団体として登録、2021年4月より協議会実務者団体として登録

(内容) 外国ルーツの子どもたちの実態調査や研究、研修会の開催（※2016年6月天草市で大規模開催）、各地域の実践者の交流、関係機関との連携などを行う。

(連携機関) NPO 法人外国から来た子ども支援ネットくまもと、一般財団法人熊本市国際交流振興事業団、熊本ユネスコ協会、崇城大学、尚絅大学、熊本県人権教育研究協議会、八代地区人権同和教育研究協議会、コムスタカー外国人と共に生きる会、秀岳館高等学校、中九州短期大学

#### ◆外国にルーツを持つ児童に対する日本語指導

(実施開始) 2019年4月～

(内容) 外国にルーツを持つ児童に対し、学校内で取り出し授業の形式で日本語指導をおこなう。

(連携) 天草市学校教育課、NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと

(実施時数) 延べ265時間 指導員3名派遣 ※児童の人数や国籍に関しては個人の特定につながるため非公表

#### ◆熊本県警天草警察署との共催日本語教室

(実施開始) 2018年度～ 毎年1回開催

(内容) 警察署員による日本の警察や法律に関するクイズ大会、警察官の制服ファッションショー、現役署員との交流会など、外国人にとって安心して暮らすために大切な内容をより実践的に楽しく学習できる内容で実施。外国人だけでなく、警察署員や地域に暮らす日本人ボランティア参加者にとっても、外国人の困りごとを知ったり、緊急の際のやり取りの難しさを実感する。

(直近実施回参加者数) 3月4日 44名 ※警察署員10名含む

#### ◆天草広域連合消防本部との共催日本語教室

(実施開始) 2019年度～ 毎年1回開催

(内容) 火事や病気が、事故などにあった時の通報について学習し、実際に日本語で119通報をしたり、三者通訳システムを使って通報体験をしたりする。外国人と消防署員の双方にもしもの時の備えとなっており、外国人が通報することができたという事例もあがっている。

2019年：外国人と消防指令室にて実際に緊急通報の訓練を実施。通訳システムの必要性を痛感されシステム導入について検討される。

2020年：三者間通訳システムを導入される。導入されたシステムを使って日本語教室内で実際にシステムを利用しての訓練実施。天草地域在住の外国人利用言語と利用が高まる時間と契約時間がマッチしていないことが分かり、システム内容の変更を検討される。

2021年：三者間通訳システムの適用言語を22言語、24時間利用可能となる。教室内で実際に利用訓練を実施。三者間通訳につなげるまでの消防署員の日本語が伝わりにくいことが判明。

2022年：緊急通報は命に係わることから、広域消防本部での外国人に伝わりやすい「やさしい日本語」の研修導入を現在検討協議中。

(直近実施回参加者数) 12月2日 30名 ※消防署員4名含む

#### ◆E P A外国人看護師候補者に対する日本語指導

(実施開始) 2020年6月～

(内容) 医療施設で就労しながら日本の看護師国家資格取得を目指すベトナム人(母国看護師国家資格取得者)に対し、国家試験のための日本語と看護業務のための日本語を指導。また、院内で自主的に実施されている日本語指導について指導プログラムの提案と、指導方法についての相談対応も実施。

(連携) 社会医療法人稲穂会天草慈恵病院

(実施時間と実績) 2020年6月～対象者1名に対し55時間指導 2021年3月看護師国家試験合格、 2022年4月～対象者1名に対し指導開始